幼稚園教育と家庭教育を考える

彩の国 子育てジャーナル

発行人　四ツ釜雅彦
公益社団法人　全埼玉私立幼稚園連合会・幼児教育センター
全埼玉私立幼稚園ＰＴＡ連合会
〒330-0063　さいたま市浦和区高砂4-13-21 私学会館新館
TEL 048(863)7811　FAX 048(863)7761
http://www.youchien.ed.jp

No.90
2019(令和元)年
7.10

「生きる力」を育む教育
人と比べなくて、いいんです

(公社)全埼玉私立幼稚園連合会
名誉会長 **平原 隆秀**

新年度を迎えて三ヶ月。子どもたちも新しい生活にすっかり慣れてきたことと思います。新入児の保護者の皆様も、泣きながらの朝のお別れから、次第に自分からバイバイと手を振って登園するお子さんの姿を見て安堵している方も多いことでしょう。その一方で、「うちの子はまだ登園を渋っていて、どうしたらいいのか…。」と悩んでいる親御さんもいらっしゃるのではないでしょうか。

幼児教育センターにいただく相談の中には「上の子のときはこんなことはなかったのに、どうして?」と戸惑う声も多く聞かれます。また、園での生活が軌道に乗ってくると、他の子と自分の子が一緒に遊ぶ姿を見て「他の子はできているのに、うちの子はどうしてできないの?」と心配になることも少なからずあります。それは我が子を大切に思うからこそ湧き出る感情ですから、あって当然だと思います。

しかし、ご存知のとおり子どもは一人一人違います。身長や体重も平均値があるからといって、みんながその平均身長や平均体重ではないように、すべての子どもが横一列に成長することなどあるわけがないのです。成長のペースもタイミングも、人それぞれ。身長に限らず、勉強でも運動でも、小・中学校に入ってから伸びる子もたくさんいます。それなのに、今のうちから「お兄ちゃんはあなたと同じ歳で、もう字が読めていたのに。」「お姉ちゃんは年長でもうピアノの教本がここまでできていたのに。」「○○ちゃんはもうなわとびが跳べるのに。」と、いつも兄弟姉妹や他の子と比べられていたのでは、子どもだって息苦しくなってしまいます。

もし、我が子が自分に向かって「○○ちゃんは、あのおもちゃを買ってもらったんだって。わたしも欲しいな。」と言ってきたら、あなたは何と言葉を返すでしょう。恐らく「○○ちゃんは○○ちゃん、うちはうちです。」などと返すのではないでしょうか。同じように、よその子はよその子、我が子は我が子なのです。

近い将来、我が子から「○○ちゃんのお母さんは、もっとやさしいのに。」などと逆に比較されることのないように、兄弟姉妹や他の子と比べることは今のうちからひかえて、その子自身をしっかりと見つめてあげましょう。

その上で気になることは、どうぞ幼児教育センターにお電話ください。

シリーズ 子育ての知恵 47

子どもの言動の背景を考える

横瀬　敏也

どんより曇っている日、園庭で遊んでいる男の子が私のところに寄ってきて、空の雲を指さして一言、「怪しい雲だ」と言って走って行ってしまいました。4歳児の発言とは思えない驚きと、お家での親子の会話が目に浮かび思わずにやりとしてしまいました。もしかしたら父親と雨雲を見て、「天気が怪しい」などと言った会話をしていたのかもしれません。また他の女の子は、鉄棒で遊んでいて近づいてきた私にお話ししてくれました。「園長先生、鉄棒でくるっと回ると、事務所とかお友達も逆さまになるんだよ」、最初は何のことか分からなかったのですが、よく考えてみると自分が逆さまになって見えた風景が、通常見る風景の逆さま仕様である。だから、風景自体が逆さになっていると考えたのでしょう。なるほど、よく考えているなと感心しました。

子どもたちの言動からは、その子の意志だけでなく、育っている環境など背景を探ることができます。何気ない会話や遊んでいる姿の中にも、子どもを理解するキーワードやヒントが隠れています。見逃すことなく、大切にして行きたいものです。

わが子の安全を守るため 防犯の知識をしっかり伝えよう！

～防犯研究の第一人者・清永賢二先生に子どもの安全対策を聞く～

子どもを一人にしない 目を離さない

子どもの連れ去りや傷害などの事件は、登下校の際によく起こります。その点、幼稚園児の通園は保護者が付き添うか、園バスでの送迎が原則なので比較的安全です、ところが、年長児くらいになると、一人でお友だちの家に遊びに行ったり、お友だちと一緒に近くの公園へ遊びに行ったりすることがあります。わずかな時間でも親の目が離れたらそこに危険が生じるのです。間もなく始まる夏休みには特にそのような機会が増えることでしょう。

保護者と一緒にショッピングやレジャー施設に行った時には、人込みの中で子どもが迷子になってしまうことがあります。親子で懸命に探し回っているうちに、子どもはどんどん親から離れ、人目のつかない場所にたどり着き、犯罪に巻き込まれてしまうケースがあります。

犯罪者はこのような「一人でいる子」に目を向けます。なぜなら、一人でいる子は犯罪者にとって「犯罪をやりやすい子」であり、大人がそばにいないため「近づきやすく接触後、逃げやすい子」だからです。

犯罪からの安全策の基本は、常に子どもとしっかり手をつなぐことです。そして、必ず子どもを自分の視野に入れておくことです。この二つを守れば、まず安全といえます。

ただ、それでも人込みにまぎれて、子どもが迷子になってしまうことは避けられません。そんな時に備えて、子どもに「パパやママが見あたらなくなって、自分が迷子になったと思ったら、その場から絶対に動かないように。動かなければパパやママが必ず見つけ出すから大丈夫」と教えておくことが大切です。

私は多くの犯罪者に「どれくらい走って追いつかなければあきらめるか」と聞き取り調査をしたことがあります。その結果は平均で二〇メートルでした。つまり子どもが二〇メートル逃げれば被害に合わなくて済むということです。

ただ小学校低学年以下の子どもにこの距離は長すぎます。そこで、この年代の子が不審者のどれくらい手前から走り出せば追いつかれないかという実験をしました。その結果はランドセルや園カバンなどを背負った状態で六メートルでした。個人差はありますが、子どもには不審者の六メートル手前からダッシュで逃げるよう教えておくとよいでしょう。この距離感を体得するために親子で練習することも大切です。

また、子どもだけで留守番する場合は、誰かが来てインターホンを鳴らしても「出なくてよい」こと、マンションなどのエレベーターに知らない人と一緒に乗ってはいけないことも教えておきましょう。

「いかのおすし」の意味を教えよう！

次頁に掲げた「**いかのおすし**」は、警視庁が犯罪から子どもを守るために作った標語です。防犯のための五つの約束ごとを、覚えやすくしていますので、子どもに繰り返し教えましょう。

まず「**いか**」とは、**知らない人についていかない**という意味です。子どもは誰もが親や先生に教えられ、知らない人について行ってはいけないと分かっています。それでも子どもは「お菓子をあげる」「珍しいカードをあげる」「かわいいペットを見せてあげる」「カブトムシがとれる場所を教えてあげる」などの甘い言葉につい誘惑されてしまうのです。

優しそうに見える人でも、「名前を知らない」「住んでいる場所を知らない」「両親の知り合いでない」人は、知らない人だと教えましょう。

「**の**」とは、**よその車にのらない**ということです。知らない人の判別が徹底されれば、子どもが自分から知らない人の車に乗ることはないはずです。また、無理やり車に連れ込まれないよう、声をかけられても車に近寄らないこと、逃げる時は車の

清永 賢二 先生

（元日本女子大学教授）

1943年大阪府生まれ。東京学芸大学大学院修士課程修了。警察庁科学警察研究所防犯少年部環境研究室長および犯罪予防研究室長を経て、日本女子大学教授（2011年3月まで）。この間、東京大学客員教授、ロンドン大学客員研究員、全国安全都市会議議長などを歴任。著書は、『少年非行の世界』（有斐閣）、『防犯先生の子ども安全マニュアル』（東洋経済新報社）など多数。

向いてる方向とは逆の方向に逃げることも、きちんと伝えておきましょう。車はすぐに方向転換できないので逃げやすくなるからです。

「**お**」は、**大声を出す**、「**す**」は、**すぐ逃げる**です。もし不審者に追いかけられたら、恥ずかしがらずに、できる限りの大声で「助けて！」と叫ぶことを教えましょう。防音設備のある場所などで大声を出す練習をしておくことも必要です。ただ、本当に危険な目にあった時には、なかなか大声を出せないものなので、その場合は防犯ブザーが役立ちます。

逃げる時は大人がいる方向を目指すこと。コンビニなどのお店が近くにあれば、そこに逃げ込むのが安全です。とにかくダッシュが大事です。

「**し**」は、**知らせる**です。不審者から逃げ、安全な所まで来られたら、近くにいる大人（または親）にその状況を知らせることも教えましょう。それが次の事件を防ぐことにつながるからです。聞いた大人（親）はその状況（いつ・どこで・どのような人＝性別・服装・だいたいの年齢・背格好）に追われたのかを警察に届けましょう。（談）

「いかのおすし」は防犯のお約束

いか…行かない（知らない人について行かない）
の……乗らない（知らない人の車に乗らない）
お……大声で叫ぶ（助けて！と大きな声を出す）
す……すぐに逃げる（大人のいる方にすぐに逃げる）
し……知らせる（どんな人が何をしたか大人に知らせる）

幼稚園と子どもと親

思い出の幼稚園

みやした幼稚園園長　田中　元三郎

私は今年の春68歳になりました。私は5人兄弟の末弟として生まれ、兄弟の中で唯一幼稚園に入れてもらった子供でした。なぜなら上の兄弟の幼児期には街に幼稚園が無かったからです。

遠い昔の幼稚園児の頃を思い出すと、毎朝幼稚園に一番に登園しました。その頃は道路で自動車にめったに合うこともなく、親の付き添いも無く一人で登園しました。道路脇は畑で、途中にカトリックの教会が有りました。フェンスにはバラのつるが絡まり、季節には綺麗な花が咲いていました。園庭は門の鍵が無かったので園庭に入り、先生が園舎の鍵を持って登園するまで園庭で遊びました。園舎に入るのも一番で、園内の積み木を全部集めて、自分の背より高い積み木のタワーを作り、後から登園して来る園児を驚かせました。また庭の藤棚の支柱に登って得意になったり、時には園のフェンスを乗り越え川沿いの堤防を走り、後で先生にしっかりお叱りを頂いた記憶があります。

昼食はみなお弁当です。当時のお弁当はたいていごはんの上にたらこや塩鮭が一本ドカット入っているお弁当や、卵焼きに沢庵3切れなどでした。冬の寒い日はお弁当をストーブのまわりに並べて温めて食べたものです。

お遊戯会の思い出は、こぶ取り爺さんの鬼の役をやった記憶があります。参観の親と言っても母親だけしか見に来ません、父親が参加することは当時めったになかったと思います。

子どもの成長には、親の愛情が一番大切なことはだれでも承知のことですが、最初の社会へのデビューは幼稚園でした。家庭から離れて、小さな社会の中で先生や友達と過ごすことは、家庭に無い他人との触れ合いや、社会生活のルールを身に付ける最初の学校です。それから大学まで進んで、幼稚園の園長を35年も勤めて来ました。今人生を振り返ってみると、父母の愛と、初めての社会である幼稚園の生活には今もって大変感謝しています。

わが家の子育て

想いを言葉に

久喜あおば幼稚園　**米原浩美**

うちには6歳の息子がいます。生まれつきあまり身体が強くなかったので、健康を最優先に考えてきました。しかし親が子供のためにと思っていても、子供がやりたい事とは限りません。

まだ息子は自分の気持ちを上手に表現できないし、親といっても子供のすべてを理解できるわけではありません。そのため、お互いの気持ちを確かめ合うことを大切にしてきました。

現在年長になった息子は、やりたくない事も頑張ったおかげで身体が丈夫になってきました。休みがちだった幼稚園も、元気に登園できるようになってきました。

来年はいよいよ小学生。これからもたくさんの壁にぶつかると思いますが、力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。

視点を変えれば

かきの木幼稚園　**庭野可恵**

「短所も視点を変えれば長所である」

これは私が常々意識していることです。小学3年と年中の息子は対照的な性格ですが、長男の大雑把さは「おおらか」、次男の人見知りは「慎重派」のように、長所として伸ばしていけたら、そして、子供としてではなく、一個人として考え、見守れたらと思います。そんな我が家は、長男が卒園した園に現在は次男がお世話になっています。自然豊かな園で生物の魅力に取りつかれた長男は、ダンゴムシから始まり、ザリガニ、カブトムシ、カタツムリ、アゲハ蝶の幼虫など自宅に持ち帰っては育てました。現在もその好奇心は止まることなく、理科に夢中な様子。さて、次男は卒園までに何に興味を持つでしょうか？

皆で子育て、孫育て

小鳩幼稚園　**宮原春奈**

現在三人の子育て中。そして、四人目を妊娠中です。四人目なんてすごい！とよく言われますが、私自身が四姉妹だったので、特にすごいとは思っていません。

主人は協力的で、四人目出産後に育休取得予定です。実家も隣にあり、母もいつでも手伝ってくれます。

長男入園前は私が仕事をしていたので、長女と長男は私の母と祖母に面倒をみてもらっていました。だからとは断言できませんが、一番祖母達と過ごす時が長かった長男が姉弟の中で一番優しい性格です。

「孫育て」が原因で不仲になる家庭もあるそうですが、私には恵まれた環境だと思い、これからも皆で子育て、孫育てしていきたいと思います。

我が家の団らん

星野学園幼稚園　**武井玲奈**

我が家の夕食は家族揃って食べるようにしています。その時間は年長の娘と年少の息子が幼稚園や習い事であった出来事を我先にと話し、話題が途切れず賑やかです。特に夫はその時間をとても楽しみにしています。

娘はとても話好きで「先生に昨日は家で焼肉したって話したの。油が跳ねるから周りに新聞敷いて、食べ終わったらお部屋中焼肉の匂いで臭かったんだって言ったの。そしたら先生も焼肉の時新聞敷くんだって！」と事細かに話してくれました。私達が何気なくしていることをよく観察、記憶しこのように感じていたのだと、子供の感受性や成長に驚かされる毎日です。これからも子供達との会話を大切に過ごしていきたいです。

8020運動30年と健康長寿社会

80歳になっても20本以上の歯を保ち、食べる、話す、笑う、ということを楽しめる社会を目指す。これが8020（はちまるにいまる）運動です。この運動が始まってから30年がたちました。スタート時に、この達成者は10人に一人もいませんでしたが、今では50％以上となっています。そしてこの歯を失わないということが、生活習慣病をはじめとする病気やフレイルの予防、そして長寿に関係することが多くの研究成果から明らかになってきています。

私たちが歯を失う原因は、むし歯と歯周病が進行し悪化することです。いずれも不健康な食生活が大きな要因です。誰でも食べているかぎり発病のリスクが伴いますので、生涯にわたる予防の取組みが必要です。幸い子どものむし歯はこの30年の間に劇的に減少してきました。しかし地域間で、また同じ地域に暮らしていても個人間で、格差の問題が残されています。また大人や高齢者を含めて考えると、国民全体ではむし歯はむしろ増えています。そのためむし歯予防は、親から子に、そして子が親となりその子どもに、また高齢期を迎える両親に対するケアといった世代を越えたものであるとともに、社会全体で取り組まなければならない課題です。

本県では、県民の生涯にわたる歯・口腔の健康を支援するための計画「埼玉県歯科口腔保健推進計画（第3次）、2019年～2023年」が定められています。この中で、子どものむし歯予防は大きな柱の一つです。その目標は、3歳児でむし歯のない子どもの割合を90・8％に、12歳児（中学1年生）で78・1％にすることです。そのための方策が、保育所・幼稚園、小中学校でフッ化物洗口（定められた濃度と頻度の洗口液で1分間ブクブクうがいをする方法）を実施する施設を増やすことです。具体的には、保育所・幼稚園の20％、小中学校の50％の施設で、この方法が実施されることが目標です。

5年後にこの目標が達成され、8020達成型健康長寿社会にさらに一歩近づいていくことが期待されます。

（一般社団法人埼玉県歯科医師会　深井穫博）

幼稚園に通わせて

六年間ありがとう

藤塚幼稚園　有竹耕太郎

長女の入園から次女が卒園するまでの六年間で頑張る先生の姿をたくさん見てきました。一年の終わりにはどの先生も目に涙を浮かべ、達成感に満ちたいい顔をしていたのが印象に残っています。それはきっと、親や園児の前で見せる笑顔だけじゃなくて、誰も知らない所でたくさん泣いて、悩んでくれていたから。私たち親と同じ気持ちで、娘が直面する日々の小さな挑戦を見守りながら、成長の瞬間とその笑顔を見届け続けてくれていたからだと思います。人との温かい繋がりの中でたくさんの優しさを教えてくれた幼稚園。大好きだった場所も今年で娘と一緒に卒園です。六年間、皆さんのお陰で親として成長できたこと、心から感謝しています。

小さなお兄さん

富士見みずほ幼稚園　伊藤　歩

ぶかぶかな制服を着て入園してから、あっという間に年長さんになった息子。年少さんの頃はYシャツやネクタイのボタンができず泣きながらいつも「ママボタンして。」と言う日々でした。でもいつのまにか一人で着替え、幼稚園の持ち物チェックもできるようになりました。幼稚園に行けば年少さんのお部屋に行き、お着替えのお手伝いを進んでしたり、泣いてる子がいれば「どうしたの?」と優しく声をかけ、涙をふいてあげたり頭をなでてあげているという話を先生から聞くと、家では甘えんぼうの息子からは想像つかない姿にとても感動します。園内では、お兄さんを貫いてるせいか、門の外を出たとたん急に抱っこしてと甘えてくるのはここだけのひみつ。

日々成長の学び舎

青木錦生幼稚園　妹尾邦子

ぶかぶかな制服を身にまとい、入園した頃は、言葉もはっきりせず、身支度にも時間がかかりました。時は経ち、お友達との協調性と同時に競争心が生まれ、また、縄跳びや鉄棒で悪戦苦闘し達成感や自信も芽生え、年長になった今、すっかり制服もぴったり、心も身体も成長しています。

普段のカリキュラムは勿論、スイカ割りやお餅つき会等の季節行事は本当に有難いです。運動会、お楽しみ会では、集団でやり遂げることも学べています。他学年の先生方も子供達のやる気を持てるよう引き出して下さいます。

お話も上手になってきた我が子、今日の事を話しながら園からの帰路に、日々の成長を楽しみたいです。

成長したね

おけがわ幼稚園　金子　蕗

入園当初は元気よく通っていましたが、二週間を過ぎた頃から私と離れたくないと泣き始めました。仕事を始めた私は、泣いている娘を先生にお願いするしかありませんでした。

娘は大丈夫なのかと不安に思っている私に、頑張っていたことや、どう過ごしていたのかを話して下さる先生にどれ程助けられたことでしょう。

そんな先生のお陰で、娘も幼稚園に慣れ、楽しかった、幼稚園大好きという言葉を口にするようになり安心したことを覚えています。

今年から年長になりました。年少さんのお世話をしたり、運動会に向けて鼓笛の練習を自主的に取り組んでいます。卒園まで娘の成長を陰ながら見守っていきたいと思います。

「仲良し力」をはぐくむために

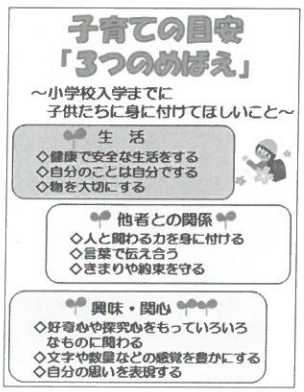
～子育ての目安「3つのめばえ」から～

県教育委員会では、幼児期に身に付けてほしいことを、「子育ての目安『3つのめばえ』」としてまとめ、推進しています。ここで掲げる内容は、どれも子供たちが生活の中で体験を通して身に付けていくことを基本としています。

その中の一つ「他者との関係」では、「人と関わる力を身に付ける」「言葉で伝え合う」「きまりや約束を守る」の三つの項目を掲げています。

最近の課題として、人と関わりながら新しい発見をしたり、新たな関係を生み出したりすることが苦手な子供が多くなっていることが指摘されています。こうした課題を抱えることは、生涯にわたって直面する課題ともなり得ます。

幼稚園等の幼児教育施設では、子供たちは遊びの中で、友達との関わりを学び、それによって「協同性」が育まれます。そして、小学校入学前頃には、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる姿が見られるようになります。



では、ご家庭では、人と関わる力、「仲良し力」を育むために、どのようにすればよいのでしょうか。

ご家庭では、まずは地域の方と挨拶をするなど、手本を示しましょう。挨拶や返事をすることが他者との温かなつながりを作る上で大切だということや、気持ちのよいことだと実感できるようにすることが大切です。

また、気持ちやイメージを言葉にして伝えることの大切さを、話して聞かせましょう。そして、お子さんがイメージや考えを伝えようとしている時には、目を見てうなずくなど、子供の気持ちに寄り添いながら聞いてあげましょう。お子さんは自分の話を受け入れて聞いてくれる人が居ることで、安心して人と関わることができ、「仲良し」のよさを感じることができることでしょう。

人と関わることの心地よさを家庭で十分に味わわせることが、「仲良し力」を高めることにつながります。

（埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課）

令和元年度

子育てフォーラムの開催について

今年度も県内20会場で子育てフォーラムを開催します。子育てに不安や悩みを抱え、自信をなくしているお母さんも多いことと思います。ぜひ一度、子育てフォーラムに参加してみてください。気持ちをリセットして、子育てを楽しむヒントをもらえることでしょう。すでに開催された地区もありますが、どちらの会場でも参加は自由にできます。

開催日	地区	会場
6月5日(水)	武蔵	行田市教育文化センターみらい
6月11日(火)	中部	桶川市民ホール
6月20日(木)	西武	所沢市立中央公民館
6月20日(木)	児玉秩父	本庄市児玉文化会館(児玉セルディ)
6月24日(月)	埼北	久喜総合文化会館
6月26日(水)	大里	熊谷文化創造館さくらめいと
7月2日(火)	東部	春日部市民文化会館
7月4日(木)	西入間	坂戸市勝呂公民館
9月11日(水)	東南(八潮)	八潮市民文化会館(八潮メセナ)
9月11日(水)	比企	東松山市民文化センター
9月12日(木)	東入間	富士見市民会館(きらり☆ふじみ)
9月19日(木)	川口	川口総合文化センター(リリア)
10月9日(水)	上尾	上尾市コミュニティセンター
10月16日(水)	大宮	さいたま市民会館おおみや
10月17日(木)	東南(越谷)	越谷コミュニティセンター
10月24日(木)	浦和	市民会館うらわ
11月7日(木)	川越	川越南文化会館(ジョイフル)
11月12日(火)	東上	朝霞市民会館ゆめぱれす
11月15日(金)	中央区	さいたま市産業文化センター

※武南地区は日程調整中
※開催時間は、ほとんどの会場で9：30受付、10：00から12：00を予定しています。

子育てフォーラムに参加して
(参加者感想文より)

子育てを楽しみながらすることが大切だと思いました。子どもたちと、毎日できるだけ笑いながら、生活できたらいいかなと思いました。今日は素敵なお話、音楽を聞くことができて素敵な時間を過ごすことができました。

初めての参加でした。参加することで心も落ち着きますし、ゆっくりした時間を過ごすことができました。毎日のバタバタした生活も楽しみながらできるようにしていけたら、もっと笑顔いっぱいの毎日が送れそうです。

時々はっとさせられたり、もっと子どもと向き合う方法について考えようと思いました。ユーモアや歌を織り交ぜた講演でしたので、とても楽しく参加できました。ありがとうございました。

今日は、自分の子育てをもう一度見直す良い機会になりました。歌と演奏も素敵で、選曲も良く、日々の慌しさから少し離れて、心穏やかになれました。
とても良い時間となり、参加して良かったです。

私の幼稚園日記

子どもの笑顔に支えられて

青徳幼稚園　森田　祐之

保育室から溢れる子どもたちの笑顔と笑い声。これらを見聞きすることが保育者という仕事で僕がやりがいを感じる瞬間である。

男性保育者として2年目の現在、昨年の持ち上がりで年長児を受け持っている。笑うことが大好きである僕は、子どもたちと一緒に笑って生活をしたいと思い〝楽しく、面白く〟を保育に取り入れるよう心掛けている。また、子どもたちは楽しいこと・面白いことに興味を持ち、活動にも積極的になる。

例えば、全体の前に立って何かを教えるとき、淡々と「このようにしましょう」と伝えるより、体の動きや声量・声色や表情に変化をつけるだけで、子どもたちにとっては面白く、より印象に残りやすくなる。そこから、苦手なことも「ちょっとやってみようかな」と感じて克服に繋がることもあると思う。制作に限らず、身体表現や音楽表現など様々な活動でも〝楽しく、面白く〟を常に念頭に置いている。楽しく取り組んだことをきっかけに、折り紙制作の苦手意識がなくなった子、興味がなかった音楽表現が楽しく参加できるようになった子など、できることが増えた子どもがたくさんいる。そのような子どもたちの成長を近くで見ることが僕にとっての喜びで、仕事に向き合うためのモチベーションになっている。

〝子どもたちの笑顔は、周囲を笑顔にする〟そのようなことを感じながら日々過ごしている。これからも子どもたちと笑顔溢れる幼稚園生活を過ごしていけるよう努めていきたい。

やさしさに出会う瞬間

庄和こばと幼稚園　福久　徹

保育者になり3年目、年中組の担当をした時のエピソードです。進級間もない時期に、年少組と交流会をしました。小さい組と上手にペアになれるかな?と心配していると、そっと手を差し伸べて『ニコッ』言葉ではなく表情で気持ちを伝えている姿を見て、1、2ヶ月で随分お兄さんお姉さんになったな…と感心しました。二人組でダンスをする場面では〝逃げる年少組〟と〝手を繋ぎ追いかける皆〟と、頑張っている姿に思わず笑ってしまいました。頼もしい!ありがとう。その後、クラスの皆に少しずつ変化がありました。園庭で年少の子が転んだ時に、私よりも先に駆け寄って「先生!僕が一緒に事務所に連れて行くね!」「大丈夫?ケガは無い?」ハンカチで涙も拭いてくれます。自分のことだけでなく小さな組のことも考えて、支えあっている姿に成長を感じ嬉しくなりました。「ありがとう」と伝えると笑顔を返してくれ、また更に優しさを発揮してくれます。皆が笑うと私も笑う。私が笑うと皆はもっと笑う。気付けば子ども達との距離もぐっと縮まります。少しずつの積み重ねから信頼関係が生まれる事を、子ども達から学びました。これからも、子ども達のやさしさに出会う瞬間の『やりがい』を支えに、みんなを笑わせみんなと笑いあう毎日を過ごします。

子育て相談 Q&A

Question

年少の男の子を持つ母親です。入園当初は泣いて登園することもありましたが、今では帰ってくると園での楽しかった事をお話してくれます。しかし、先日先生に息子のお部屋での様子をうかがったところ、活動に参加せず、見ている事が多いとのことで驚きました。先生は無理に誘わず、見守ってくださっているそうですが、集団行動ができない子なのか心配になりました。

Answer

入園して3ヶ月、泣いていた子が先生やお友達にも慣れ、楽しく登園できるようになった事、親として喜ばしい事ですよね。

活動に参加していないと聞くと、集団行動ができないのかと不安になってしまうのも分かります。しかし、やる子もいればやらない子もいる、その子によって違うので焦らなくてよいと思います。「参加しない」イコール「何もしていない」わけではありません。目で見て楽しんでいる子、その場で身ぶり手ぶりをしている子など、その子なりに参加しているのです。お子様はお家で楽しかった話をしてくれるということで、今は目で見て参加しているのかもしれませんね。活動の中で、少しでも興味を示したり、やりたいと思ったら「一緒にやってみよう」と保育者が見守りながら声をかけているはずです。我が子や保育者の対応を信じて待ってみてください。参加できた事に自信がつけば、徐々にみんなと一緒に参加できるようになると思います。

（川田　恵）

電話相談件数(H30.4～H31.3)

内容別件数（のべ件数）

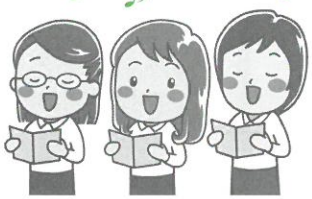
園・学校に行きたがらない	15
気になる行動(赤ちゃん返り・性器をさわるなど)	36
自閉症・多動・学習障害など	23
食事に関して	5
友だちに関して	22
幼稚園生活(いじめる・いじめられる・なじめない)	13
言葉(遅い・幼児音・暴言)	8
言うことを聞かない・カンシャクなど	13
排泄について	4
その他	273
合　計	412

「その他」の内訳（のべ件数）

夫婦・家庭に関すること	47
保護者自身に関すること	147
幼稚園に関すること	43
親子の関わり方	40
子どもの健康に関すること	9
その他(親同士・習い事・相談機関等)	29
その他の内訳の合計	315

※複数項目にわたる相談のため、その他とその他の内訳の合計は合致しません。

幼児教育センターだより



詞に育まれ メロディに癒やされた心

令和初の夏を迎えました。振り返ること1年、平成最後の夏は〝童謡100年〟の話題がいたる処で花開きました。

「うたでお母さんの心をほぐしてあげたい」結成以来、常に心にとめて歩んできた〈全埼玉私立幼稚園連合会〉でも、昨年の夏休み終盤の〈教職員中央大会〉に続く〈幼児教育フォーラム〉最終コーナーで、「音楽で繋がろう～みんなで唄おう〝童謡〟」と題し、参加者全員で童謡27曲を唄い、熱く盛り上がる刻(とき)を過ごしました。

育った世代が違う先生方には耳慣れない曲もあったかと思われますが♡時代背景や作り手の想いが伝わり温かい気持になった♡祖父母の家を思い出し懐かしく口ずさめた♡情景が浮かび日本語の美しさ豊かさを再認識♡自然に手を繋ぎ踊り明るく元気になれた♡早くこどもたちと歌いたくなった♡伝えてあげたい♡など、950人以上の嬉しい感想が届きました。♡会場がひとつになりすごく楽しかった♡心が繋がりうちとけ合えた♡他にも、みんなが一緒に唄ったことに、それぞれの言葉で感動が綴られ、紙面には「こどもたちにも歌う楽しさを伝えたい　自分がもっと楽しく歌ってあげなくちゃ！」と、明日からの保育への夢や意気込みがいっぱいに溢れていました。

「お気に入りは？」の問いには♪故郷(大正3年・唱歌)よく母が唄ってくれた♪くつがなる(大正8年・埼玉ゆかりの歌)幼い時母と手をつないで唄い娘が生まれてから一緒に手をつないで唄った♪夕焼小焼(大正12年)友だちとさよならする時流れてた、心にしみる。など、すてきなコメントや、さすが幼稚園の先生！かわいい絵まで添えて下さいました。

3世代いえ4世代で唄い合える歌がまだまだ残っていそうですね。

文学者有志が「美しい日本語をこどもたちに」と、文学雑誌を創刊したのは1918年7月、第一次大戦勃発から4年、終戦直前(同年11月戦勝)のこと。翌年には音楽家有志の手で「詞のニュアンスを大切に」次々と曲が付けられ、明治後期の唱歌(学校で習う歌)人気と相まって、童謡は日本の文化として根付いていきました。

大正ロマンから激動の昭和そして平成へ、唱歌はその立場から、時代の波に翻弄された歴史もありましたが、童謡は時代背景を映しながらも、常に人々の心に寄り添い、家族や仲間と聴き合い唄い合ううちに、ひとつひとつの温かい詞(ことば)が人々の心を育て、その優しいメロディが心を癒し、心地よい柔らかなリズムが心に落ちつきをもたらし、生活を和ませ続けてきたのですね。

幼稚園の先生方の即興イラスト

♥口ずさんでみよう♥
心が渇いてしまう前に

子育て電話相談

毎週月～金曜日
午前10時～午後4時
☎048-863-7811
幼児教育センター

子育てジャーナルのバックナンバーはこちらから

全埼玉私立幼稚園連合会
ホームページ
(http://www.youchien.ed.jp)
子育て支援 ➡ 子育てジャーナル
を選択

編集後記

夏休みの過ごし方は、毎年決まった行事に参加したり、田舎の祖父母のところに帰省したりと各ご家庭で様々だと思います。慌しく時間が過ぎていく日常とは違い、少しゆったりと時間を楽しむのもいいかもしれません。親子で一緒に遊ぶのもいいですし、ちょっとした家事を一緒にしてみてもいいでしょう。初めて経験することに子どもたちは目を輝かせて挑戦するはずです。